

令和3年度 第2回 精神保健福祉士養成学科 教育課程編成委員会 報告書

開催日時：令和4年3月18日（金）15：00～16：30

場所：zoom形式

参加者名

委員 阿部 未麻貴（医療法人社団総合会 武蔵野中央病院 相談室長）

委員 瀬川 聖美（社会福祉法人 本郷の森 理事長）

委員 関原 育（東京都精神保健福祉士協会 理事）

教員 岡崎 直人（精神保健福祉士養成学科 学科長）

教員 根本 典子（精神保健福祉士養成科 学科長）

職員 松木 健太（教務課）

1. 第1回教育課程編成委員会振り返り及び実施報告

根本より前回のまとめとそれに対する取り組みの報告が行われた。

～令和3年度 第1回教育課程編成委員会 振り返り～

<前回のまとめ①>

精神保健福祉士としての自身の将来像を入学者に具体的にイメージしてもらうために、入学前学習会の改編を検討する。対面に限定すると、コロナのこともあって回数が限られるが、zoomなどを活用すればその制約にこだわらなくてもいい。

根本)

これまでは参加者の多くが昼間部の学生のため、従来夜間部教員に関しては参加していなかったが、今年度は夜間部教員入学前学習会に参加した。

1月16日に第1回の入学前学習会を実施し、36名入学予定者が参加。入学後のスケジュールについて』『精神保健福祉士について』『国家試験について』『入学前の今からできること』と新入生の関心の高い4つテーマにて講義を行った。

また、参加学生のアンケートをみると、精神保健福祉士の具体的なイメージ、将来のイメージ、いま取り組めること（行動目標）についてある一定の理解を得られたと感じる。

～参加者からの声（一部抜粋）～

- ・国家試験や就活について不安に思うことがあったが、少し解消された。
- ・精神保健福祉士についての職業理解も深められ良い機会となった。
- ・入学後の流れ、国家試験、就職についてなど、流れを掴むことができた。

・感情的なクライアントを前にしても、過去どのような体験を積んで今に至っているのかと
いうことを想像して共感できるよう、資格の勉強だけでなく、自己覚知、クライアント理解
にもしっかり取り組んでいきたい。

・まだ職業理解や将来のビジョンが定まっていないので、教えていただいた書籍や協議会の
ウェブサイト、就労支援施設などを訪ねてみたい。

・精神保健福祉士の仕事は病院や施設に限られると思っていたが、多くの分野で活躍できる
ことを知り、視野が広がった。

・オンラインで開催してくださり、誠にありがとうございます。

etc

※アンケート回答：26名

<前回のまとめ②>

学内実習には考えられうる工夫を施しているものの、特に医療機関は具体的な見せ方が
とても難しい。デイケアや半日程度の院内見学など、少しでも学生が現場の“空気感”をつか
み、患者と触れ合う機会を設けることを検討する。

根本)

学内実習においては昨年同様、動画視聴後グループワーク、課題を実施した。動画視聴で
現場の空気感を伝えることが難しく、実習指導などの授業において、現場の職員をゲストス
ピーカーとして招聘、また ZOOM を活用し講義を行ってもらうなど、現場と学生とをつな
ぐ機会を設けるよう努めた。

<前回のまとめ③>

現場実習を何らかの形で代替にて振り替えた、いわゆる「コロナ世代」の卒業生につい
ては、卒後のアンケートによる何らかの検証が必要である。ただし、その実施にあたっては、
卒業生のプライバシーを守る点に最大の注意を払わねばならない。実施形態、可否などにつ
いて引き続き検討していく。

根本)

案として大きく2つ検討している。

◆メールを通じたアンケートの実施

卒業後3ヶ月程度でアンケートメールを配信し、情報を集めたい。

アンケート内容としては『学内実習や Zoom によって行った授業という形態と現場の業
務との関係について、やりにくさがあったか』について確認したいと考えている。また、学
内実習や zoom に切り替わったことで良かったことなども、内容を工夫しながら確認した
い。

◆研究会の開催による情報収集

卒業後に研究会を開催してほしいという要望もあり、希望者に集ってもらい現場での情報の共有をもとに、ギャップを図るもの。ただし、コロナウイルスの感染状況を鑑みると、次年度実施できるかは未定。

<各委員からの意見>

瀬川委員)

アンケートの実施時期については、仕事に慣れるという観点からも、早すぎない時期が良いと思う。

阿部委員)

3ヶ月だと業務になれたかどうかのタイミングのため、実習があったか、なかったかでの違いは分かりづらいのではないかと。半年や1年くらいのほうが有意義なアンケート結果がでてくると感じる。

関原委員)

職場のことを把握するまで時間はかかると思うので、ある程度なれた段階で振り返ってもらえるとよいのではないかと。

根本)

夜間部に関しては、現業を継続される方や、早めに就職先を決める学生が多く、早い時期での実施も可能かと考えていたが、改めて検討したいと思う。

2. 今年度学科報告と課題

根本より今年度の学科報告を行った。

◆国家試験結果報告及び国家試験対策について

今年度の合格率は87.2%。昨年90%を超えたが、今年度は少し届かない結果となった。国家試験対策としては学校として行っている年3回の模試のほか、学生が苦手とする共通科目の特別補講を国家試験直前に3回実施した。また、任意になるが、1週間に4科目を解いていく、国家試験チャレンジを実施。すべて参加した学生は652題に取り組んだことになる。参加率は50%程度のため、参加率の改善ができれば合格率も上がっていくのではないかと感じている。

また、本校に入学すれば合格できるといったような認識の甘さを持つ学生もいるため、細やかな指導が必要。心の健康状態から勉強できなくなる学生もいるため、心の健康管理にも

意識的に取り組んでいきたい。

◆コロナ禍の授業について

夜間部では zoom での授業参加は 4 名程度にとどまり、多くの学生が対面にて授業を行った。しかしながらやはり、グループワークが生じる科目においてはスムーズな運用が難しく、課題が残る。また普段登校している学生と zoom 参加の学生とでコミュニケーションが希薄になることも大きな課題と感じた。

◆実習について

施設実習については現場実習を実施することができたが、やはり医療機関は難しく、学内実習での対応となった。可能であれば次年度は医療機関への実習を実施したいと考えている。

<各委員からの意見>

阿部委員)

コロナ以前は年間 6～7 名を受け入れていたが、昨年は 3 名の受け入れとなった。正直申し上げて平日 5 日間で精一杯と感じる。自由に病棟に出入りしてもらうのも、まだ厳しい状況のため、カンファレンスや面接をする際に同席させるというような接点を設けている。以前のように実習らしい実習になっているのかというと、疑問を抱きながら、という印象だった。

感染状況に大きく影響をうけるため、来年度も果たしてどこまでできるのか、悩まし状況が続いている。

根本)

医療機関の難しい状況を伺ったが、短期実習でも可能であれば受け入れをお願いしたいと考えているため、またご相談させていただきたい。

◆退学者について

1 名の退学者が出た。お仕事優先となり、授業参加できなくなってしまった。入学前に 1 年の計画が立てられているか、しっかりと確認を行い、このような退学者がでないように心がけたい。また、学生の些細な変化に目を向け、細やかな面談実施を継続していく。

3. 今後の課題

岡崎)

以前にも伺った内容になるが、『現場で活躍できる精神保健福祉士の養成』については大きなテーマとなるが、検討していきたい。改めてご意見をいただきたい。

阿部委員)

やはり専門職だからこそ、自ら考え答えを探せる力(自立した答えを出せる)を持つ方が必要と感じる。そういった力が学生時代に少しでも身につくと良いのではないかと感じる。

関原委員)

ずっと学んでいく意識は大事だと思う。現場にでると日常業務に追われ思考停止してしまう。そのままだと息詰まるため、自身の仕事を振り返る意識や場を持つことは大切。また地域で働いているからかもしれないが、ネットワークの意識は大事だと感じる。仲間を作っていき、様々な知見を広げていけると、将来的な支えにもなっていく。

瀬川委員)

一人で抱え込んでしまうのではなく、仲間と相談しながら様々な意見を取り入れ、解決の道筋を見つけていく力が望ましいと感じる。

根本)

仲間と協働しながら進めていくというのは、基本的なことになると思う。基本的なことだからこそ、学生にしっかりと伝え、意識的に協働することを刷り込んでいく必要があると感じた。

4. まとめ

- ・「コロナ世代」の卒業生に対する、卒後のアンケートについては卒業後半年後、1年後などの時期や回数、内容も含め、継続し検討していく。
- ・学生の心の健康管理にも取り組んでいけるよう、現在の学生面談に留まらず、各関係機関と連携を図り対応を強化していく。
- ・現場で求められる精神保健福祉士を養成するべく、『自ら考える力』や『課題意識』、『課題解決のためのネットワークの構築』などは、まだまだ授業に落とし込めていない。現状のカリキュラムの中でどのように落とし込み、学生に浸透させていくか、継続し検討することが必要。

以上